



慶應義塾大学「論理と感性の先端的教育研究拠点」

平成22年度若手研究成果報告会

本グローバルCOEの研究主題として掲げる【論理と感性】の先端的研究を行う、若手研究者29名が、脳と進化、遺伝と発達、言語と認知、哲学・文化人類学、論理・哲学など、平成22年度の研究成果を発表致します。

日時：2011年2月8日(火) 10:00～18:00, 9日(水) 12:00～17:30

場所：三田キャンパス東館6階G-SEC Lab

2月8日(火) 発表者・演題

2月9日(水) 発表者・演題

皆川 泰代 10:10～10:40
慶應義塾大学グローバルCOE
赤ちゃんラボにおける研究概要報告(2)

太田 真理子 10:40～11:00
聴覚刺激の馴化過程における皮質活動と
循環器活動の因果関係の変化

尾島 司郎 11:00～11:30
Foreign-language learning accelerates
children's spoken-word processing in the
mother tongue

桃生 朋子 11:30～11:50
第二言語獲得者による省略構文の獲得

佐治 伸郎 11:50～12:10
様態を表す言語音の音象徴性に関する
日英比較研究

村井 忠康 13:00～13:20
事実は知覚されるか

植村 玄輝 13:20～13:40
志向性の対象説

串田 裕彦 13:40～14:00
ゲーデル文の様相論理的分析

矢口 朱美 14:00～14:20
James Sullyの心理学における
「心ある機械」としての主体概念の形成

山崎 由美子 14:20～14:50
コモンマーモセットによる道具使用行動の学習

加藤 真樹 14:50～15:20
コモンマーモセットとジュウシマツの脳における
可塑性関連分子の発現解析

伊澤 栄一 15:50～16:20
カラスにおける序列社会の形成・維持機構

一方井 裕子 16:20～16:40
セキセイインコにおける闘争後親和行動

増田 早哉子 16:40～17:10
表情表出に伴う神経活動

石川 哲朗 17:10～17:30
Visual One-shot Learning as Restoration
of Degraded Images

八賀 洋介 17:30～17:50
2レバー弁別VRスケジュール下における
ラットの余剰反応と強化の価値に関する考察

四本 裕子 12:00～12:30
視覚情報抑制の知覚学習：
fMRIによる脳機能の可塑性の検討

染谷 芳明 12:30～13:00
脊髄の機能画像

田谷 文彦 13:00～13:30
ギャンブル課題における
探索的意思決定に関わる神経基盤の解明

柴田 みどり 13:30～13:50
間接発話理解に関与する脳内メカニズム

寺澤 悠理 13:50～14:10
内受容感覚と不安傾向に関するfMRI研究

丹野 貴之 14:10～14:30
学習の原理の解明とその種間比較

濱 雄亮 14:30～14:50
患者会会報誌に見る“理想の糖尿病患者”像

三宅 博子 14:50～15:10
臨床音楽即興における音楽/環境ネットワーク
の生成と変容:副腎白質ジストロフィー患者の
音楽療法事例を通じて

Mohácsi Gergely 15:40～16:10
病気を身につける:文化と医療技術の交差点

山根 千明 16:10～16:30
絵画印象における時間と違和感

秋吉 亮太 16:30～17:00
順序数を用いない証明論について

鈴木 生郎 17:00～17:20
三次元主義と四次元主義の対立について

鈴木 康則 17:20～17:40
デリダとハラウェイ - 動物論再考

お問合せ：慶應義塾大学グローバルCOEプログラム
「論理と感性の先端的教育研究拠点」事務局
<http://www.carls.keio.ac.jp/>